

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

STAFF

公表：令和 5年 2月27日

事業所名 デイジーくらぶ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5		活動内容にに応じて、パーティションを活用している。	建物内の地域交流スペースや屋外の駐車場を活用するなど、こどもたちの活動に合わせたスペースの確保に努める。
	2 職員の配置数は適切であるか	5		基準はクリアしている。	外部研修への参加や内部研修での自己啓発に努める。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく精選化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	5		床マットの色での区別やBOXを活用した間仕切りを行っている。また、写真やイラストによる視覚提示をしている。	パーティションや静養室を活用し、個々の特性に応じた過ごし方を工夫していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5		毎朝・夕の消毒・清掃を行っている。また、時間ごとの換気を行い、空気清浄機を設置している。	毎日の掃除や消毒を今後も徹底し、清潔な環境に努める。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	5		毎日の活動の予定検討と振り返りを朝に行い、グループ会議やスタッフ会議を通じて協議検討を行っている。	グループ会議とスタッフ会議の充実を図る。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5		評価表の集約を行い、分析・検討を行うことで、スタッフ間での共有化を図る。	評価表の分析だけでなく、日常のお迎え時の会話や連絡帳を含めた「声」に耳を傾けるように図る。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5		令和3年度よりホームページでの公開を行っている。	今後もホームページの活用を図る。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5		第三者評価は未受審であるが、実習生への聞き取りを行っている。	第三者評価の共通評価基準・サービス内容評価基準について、自己評価を行っていく。
適切な支援の提供	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5		職場内研修の実施と外部研修への参加と復命を定期的にしている。	職場内研修では、「発達・人権・リスクマネジメント」の3分野に分け、職員が企画した研修の実施を図る。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	5		モニタリングの共有化とケース会議を行い、支援計画のプランニングに活かしている。	日々のミーティングを行い、ケース会議につなげ、支援計画に活かしていく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5			本人の利用時の様子やモニタリングによって、アセスメント内容の修正を行っている。
	12 個別支援計画に沿った支援が行われているか	5		日々の振り返りと定期的なケース会議により、共有化を図っている。	ミーティングやケース会議からの意見を活かしながら、日々の活動のプランニングを行う。
	13 活動プログラムの立案をチームで行っているか	5		日案、月案を日々の振り返りやグループ会議でプランニングを行っている。	ミーティングやケース会議からの意見を活かしながら、日々の活動のプランニングを行う。
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5		個別の状況や子ども同士の関わりを把握しながら、プログラムの修正を行っている。	様々な経験ができるような活動を図っていく。
	15 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	4	1	長期休暇期間では、こどもたち自身ができること、やりたいことを話し合い、活動に活かしている。	子どもたち自身が企画し、進行する企画の設定を進めていく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成しているか	5		年長児によるプログラムの企画づくりからの参加や「今日の係」といった役割分担を行っている。	活動の企画づくりや役割分担を進めていく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5		毎朝にミーティングを実施している。長期休暇期間は短時間で実施し、終了後の振り返りを重点的に行っている。	開始前のミーティングで活動予定の確認を行い、共有化を図っていく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5		スタッフ間で気づき等を出し合い、次回につなげているようにしている。	個別の状況とそに対応に留まらず、集団的な関係性も含めた支援に繋がっていくように図っていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5		必要に応じて、業務日誌に個別記録を記載している。	業務日誌の個別記録やミーティングでの意見をくみ入れながら支援計画につなげていくように図る。
	20 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	5		モニタリングや日々の保護者からの聞き取りをスタッフ間で共有化している。	共有化による支援計画の見直しをケース会議を通して実施していく。
関係機関や保護者との連携	21 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っているか	4	1	基本的な生活習慣や集団性、社会性の獲得を目指した活動に取り組んでいる。	保護者のニーズや日々の支援からの課題を含めた活動を進めていく。
	22 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5		児童発達支援管理責任者及び担当者を中心に参画している。	スタッフ間で共有化した意見をもとに、会議に参加するように図る。
	23 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	5		必要に応じて、関係者と連絡を取り、関係者会議の開催を要請している。	日々の活動での様子から、必要に応じて相談支援事業所を通して、関係者との連携を図っていく。
	24 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	5		適時、情報交換を行っている。	毎月の行事予定や下校時間等を確認し、送迎の際には引き継ぎを行っている。また、必要に応じて連絡帳を共有化し、活用していく。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5		必要に応じて、相談支援事業所に担当者会議の開催を要請している。	本人の利用時の様子や保護者のニーズに応じて、相談支援事業所を通じて、相互の情報共有化を図る。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5		必要に応じて、相談支援事業所に担当者会議の開催を要請している。	本人の利用時の様子に応じて、相談支援事業所を通じて、相互の情報共有化を図る。
	27 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4	1	必要に応じて、相談支援事業所に担当者会議の開催を要請している。	本人の利用時の様子に応じて、相談支援事業所を通じて、相互の情報共有化を図る。
	28 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5		必要に応じて、担当者会議を開催している。	本人の利用時の様子や保護者のニーズに応じて、相談支援事業所を通じて、相互の情報共有化を図る。
	29 保育所や認定こども園、幼稚園等、放課後児童クラブ、児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5		コロナ禍もあり、行っていない。	必要に応じて、検討していく。
	30 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	5		要請に応じて参加している。	必要に応じて、検討していく。
31 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5		連絡帳でのやりとりや送迎時の保護者との伝達で、コミュニケーションを図っている。	日頃の様子を伝達しながら、必要に応じて話し合いの場を設けていく。	
32 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	5			必要に応じて、検討していく。	

保護者への説明責任等	33	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5		契約時、変更時には必ず面談を実施している。	契約時には複数で対応し、チェックを行うように図る。また、変更時には直接伝え、書面でサインを求めていく。
	34	事業ガイドラインの基本的役割及び支援内容を参考にし、作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	5		支援計画について、6カ月以内で定期的に説明を行い、保護者の同意を得ている。	個々の状況に応じた支援計画の立案、作成に努める。
	35	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5		必要に応じて、モニタリングの機会を活用している。また、保護者の希望があれば、適時機会を設けている。	送迎時に日々の様子を伝え、連絡帳も活用しながら、相談に応じて必要な助言を行い、希望があれば適時機会を設ける。
	36	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	5			必要に応じて、検討していく。
	37	子どもや保護者からの相談や申入れ、苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れ、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5		要望に応じて、個別面談を実施している。	相談や申し入れの希望があった場合には、個別面談を実施していく。
	38	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5		広報誌「Daisy」の定期発行とホームページでの「活動日誌」を発信している。	広報誌やホームページでの活動内容を発信し、マチコミメールで連絡体制の整備を図る。
	39	個人情報の取扱いに十分注意しているか	5			ファイルの保管、取扱いに注意している。
	40	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5			保護者に応じた対応を配慮し、コミュニケーションの疎通を図る。
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5			必要に応じて検討していく。
	非常時等の対応	42	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	5		災害に応じた訓練を実施し、子どもたちも参加したゲーム形式の内容を行うなどしている。
43		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5			
44		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状態を確認しているか	5		利用前には保護者からのアセスメントを実施し、スタッフで共有化している。変更があった場合には適時共有化している。	引き継ぎや連絡帳での伝言で必要事項を伝え、適時電話連絡を行い、スタッフ間でも共有化を図る。
45		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5		保護者とのアセスメントから適切な対応を図っている。	引き継ぎや連絡帳での伝言で必要事項を伝え、適時電話連絡を行い、スタッフ間でも共有化を図る。
46		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5			必要に応じて事業所内で作成し、共有化を図る。
47		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5		法人でのマニュアルを参考に研修を行い、定期的にチェックリストで支援のあり方を検証している。	チェックリストを定期的実施して、支援のあり方を自己検証し、研修につなげていく。
48		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	2	3	身体拘束に関する指針を理解し、スタッフ間での共通理解を図っている。	研修の機会を設け、共通理解を図る。